

11/14

経済
シニア

安保研を結成しまわ!

安保体制下の日本...

1月23日、午後5時、F4CファントムII型戦闘機等の配備されている米軍横田基地——突如断続的なサイレンが鳴り、いま「アラート」(緊急警戒体制)が発令された。この日基地の一般ゲートは締め切られたばかりで開かれたメインゲートに車輪が長蛇の列をつくらせていた。休憩中の軍人も外出は30分以内に帰隊できる範囲に制限された。——北朝鮮元山市沖でアメリカ海軍の情報収集艦がエフエロ号及び和国兵船に突撃されて1時間以上のことである。その後この横田基地では臨戦体制の下緊張した分憂気が続いた。この様は「アラート」は1968年春から初春にだけ定期的に発令され、そしてその日は日本列島は警戒体制になったのである。

1月27日 佐藤首相の施政方針演説 ——「政府は今日まで、国力をこめて国防力を漸増準備しつつ日本安保体制とあいまって、脅威の紛争を未然に抑制してまいりました。かくしてわが国の安全が保たれ緊張が開放されたといふことは何人も否定しえない厳然たる事実であります。」さらに閣内会談「過去20年の間、日本は、日米安保条約のもと一度も戦争に巻き込まれたことはありません。それどころかこの体制のもとで目ざましい経済成長を遂げることに成功した。」

日本政府が推進した「ハトナム特需」の規模は65-67で年間14億、11億5千億円であった。64年から68年にかけての日本の対南ハトナム輸出は、いっせいに9倍、対韓国輸出も4倍に倍した。日本は「死の商人」として(ハトナム特需は、64-65年の戦後最大の不況から脱出する重要な手帳りとなり、以後の東南アジア進出の媒介となった)アメリカの戦争体制の一翼として重要な役割をたじたことは誰にも知られていることである。日本はアメリカの加担を通じたこの戦争のハトナム参戦国であった。(安保条約第2条の「日米経済協力」とは一体何なのか)

安保体制の下、日本の経済成長率および工業生産増大率は比類を知らない高さを見せた。官庁統計による国民総生産(GNP)は1968年には1419億と倍り番地をあげて資本主義世界オス位となった。工業生産では1950年から68年までの18年間に117倍といふ驚異的増大を示している。(しかしこの急激な増大生産力の高まりが、国の平和的発展、国民生活の向上と同義だったのだろうか。世界市場の競争でものをいっている日本のとびぬけて低「隠金コスト」(一)生産性の上昇は最高である。製造業1956年を100とすれば1966年は246)物価も急騰した最高の物価上昇(政府の消費者物価指数)を見ても年平均5.4%上昇、食料品家賃教育費にいたっては2倍をこえる上昇) 社会保障の劣悪さ、公害、交通事故 etc. 一方では防衛費の増大はの増大率は世界一に判り軍事産業の発展...

9日25日 佐藤首相 松江市の一日内閣で ——「沖縄の祖国復帰が実現するといふことは、名実ともにわが国が一歩立ちますといふことである。安保の問題をこれらと並べ、より主体的に看做す必要はない。国際社会にみえる日本の立場といふものを展望して、アジアの安定といふ問題についても主眼はたずのは日本であり...」

安保条約第9条では、日本の軍備力を増強はバセキと明確にされている。今日日本の軍備費の絶対額は資本主義国オ9位(1968)、自衛隊のみは戦前の数倍、社会主義国を除けばアジアで最大の軍隊で、アメリカの核威嚇体制の不可欠の一翼となって存在している。

安保研を作ること...

僕たち同世代、安保と縁の、又反対にしろ賛成にしろ行動しなればならないのか。それは日本の(ひいては世界の)未来と我々のこれからの生活人生とが本質的に結びついており、切っても切れない関係があるからである。「僕たちは今恋愛を志している。安保? そんなものどやだ、いいじやないか、俺たちには関係ないさ。」もし君がどう思うなら、「ちょっとまで、君たちの恋愛だ、と安保の中の恋愛はんだせ。」君たちの将来は、日本の運命と別のものでは無いだ」と答えてみろ。丁度、25年を経た「戦後史」の総体は、今我々に問いかけ、解答を求めている。——「君たちは、どんな日本の未来を望むのか」と。

彼らの中には、あるていど安保といふものを知り、こころをこめる。条文を文句たことのない者もいる。又その全貌をつまんでこる者もいる一方、批判的に知らず知らないものもいる。とにかく安保といふものを、多方面から眺めて、——政治、経済、軍事、文化教育イデオロギー等々——総合的に理解しようとする者は多い。